



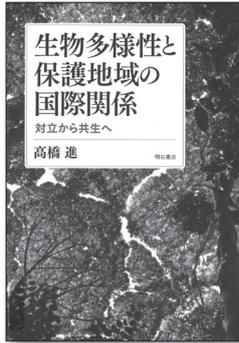
創造農村



A5判 272ページ
定価 3,000円
学芸出版社

「創造農村」とは、「住民の自治と創意に基づいて、豊かな自然生態系を保全する中で固有の文化を育み、新たな芸術・科学・技術を導入し、職人的ものづくりと農林業の結合による自立的循環的な地域経済を備え、グローバルな環境問題や、あるいはローカルな地域社会の課題に対して、創造的問題解決を行えるような『創造の場』に富んだ農村である」と定義する。『創造農村 過疎をクリエイティブに生きる戦略』(佐々木雅幸、川井田祥子、萩原雅也編著、学芸出版社)では、「景観を保全し、美しさを取り戻すことが重要になり、雄大な自然景観と向き合った時に、何を新たに付け加えられるのが、創造的な活動者に問われることになる」として、推進するリーダーの存在が期待されている。創造農村の先進事例や推進するリーダーの発言がまとめられ、今後、創造的な地域づくりを進める関係者に、その戦略と実践法を伝えてくれる。(挑全)

「創造農村」とは、「住民の自治と創意に基づいて、豊かな自然生態系を保全する中で固有の文化を育み、新たな芸術・科学・技術を導入し、職人的ものづくりと農林業の結合による自立的循環的な地域経済を備え、グローバルな環境問題や、あるいはローカルな地域社会の課題に対して、創造的問題解決を行えるような『創造の場』に富んだ農村である」と定義する。『創造農村 過疎をクリエイティブに生きる戦略』(佐々木雅幸、川井田祥子、萩原雅也編著、学芸出版社)では、「景観を保全し、美しさを取り戻すことが重要になり、雄大な自然景観と向き合った時に、何を新たに付け加えられるのが、創造的な活動者に問われることになる」として、推進するリーダーの存在が期待されている。創造農村の先進事例や推進するリーダーの発言がまとめられ、今後、創造的な地域づくりを進める関係者に、その戦略と実践法を伝えてくれる。(挑全)



A5判 244ページ
定価 2,800円
明石書店

「生物の多様性」という言葉が我が国の法律に記載されたのは、「環境基本法」(一九九三年(平成五年)十一月施行)第十四条で「生物の多様性の確保」として規定されたのが最初である。『生物多様性と保護地域の国際関係 対立から共生へ』(高橋進著、明石書店)では、「私たちの日常生活が、知らないうちにはるか離れた熱帯林破壊の原因にもつながっている。私たちは生物多様性の喪失による被害者であると同時に、知らないうちに加害者になる可能性がある。対立の根源ともなっている経済格差や資源などの不公平な配分なども含めた解消が必要になる」と著者は指摘する。世界各国が対立を超えて、地球規模の視点から「地域を超えた共生」「種類を超えた共生」「時間を超えた共生」の三つの共生が、生物多様性保全を進める上で根幹になると強調する。対立と共生の対極から、生物多様性の保全の在り方を論じている。

「生物の多様性」という言葉が我が国の法律に記載されたのは、「環境基本法」(一九九三年(平成五年)十一月施行)第十四条で「生物の多様性の確保」として規定されたのが最初である。『生物多様性と保護地域の国際関係 対立から共生へ』(高橋進著、明石書店)では、「私たちの日常生活が、知らないうちにはるか離れた熱帯林破壊の原因にもつながっている。私たちは生物多様性の喪失による被害者であると同時に、知らないうちに加害者になる可能性がある。対立の根源ともなっている経済格差や資源などの不公平な配分なども含めた解消が必要になる」と著者は指摘する。世界各国が対立を超えて、地球規模の視点から「地域を超えた共生」「種類を超えた共生」「時間を超えた共生」の三つの共生が、生物多様性保全を進める上で根幹になると強調する。対立と共生の対極から、生物多様性の保全の在り方を論じている。

新着図書紹介

利用状況

ベストリーダー (2014年2月~4月)

当図書館への来館者によく閲覧されている本を紹介。

【旅行ガイドブック部門】

海外旅行では、

- ・『るるぶフランス2014-2015』(JTBパブリッシング)
- ・『るるぶパリ2014』(JTBパブリッシング)
- ・『地球の歩き方フランス2014-2015』(ダイヤモンド・ビッグ社)

国内旅行では、

- ・『TRAVELSTYLE 北海道 2014』(成美堂出版)

【その他一般部門】

- ・『時刻表でたどる特急・急行史』(原口隆行著、JTBパブリッシング)
- ・『旅行者動向2013 国内旅行マーケットの実態と旅行者の志向』(公益財団法人日本交通公社)
- ・『数字が語る旅行業2013』(一般社団法人日本旅行業協会)

副館長のつぶやき

最近当館にやってきた新刊図書の一つに、『世界の夢の図書館』という本がある。「古今東西の美しき知の遺産が、ここにある」というメッセージとともに、世界最高峰と言われる37館の特色や魅力が、それぞれの国の歴史・文化的な背景を交えて紹介されている。蔵書数や建築的な価値においては当館とそれらを比べるべくもないのだが、「旅・観光」に関する図書館としては、世界の中でも稀有な存在であると自負したい。

本を閲覧できる場としてだけでなく、旅・観光に関する図書の魅力(=価値)が伝えられる“小さくても光る”図書館に一步でも近づけていけたらと思います。4月に着任しました。(大隅)

特別展示のご案内

観光資源と地域の魅力

2014年7月1日(火)~2014年8月29日(金)

旅人をその地へ誘う魅力としては、美しい風景もあれば、珍しい風俗やおいしい食などもあり、一様ではありません。地域の魅力は、時代とともに、どのようなものがどのように紹介されてきたのでしょうか。

例えば、1894年(明治27年)に発行された志賀重昂『日本風景論』では、独自の基準(瀟洒、美、跌宕等)を用い、日本の風景美を地理学的に分類・紹介しており、日本人の風景観に大きな影響を与えました。また、観光地の魅力は「観光資源」という言葉で表現・説明されますが、戦前から日本では「観光資源」の評価と研究が進められており、観光地を魅力的にするためのさまざまな取り組みにも活用されてきました。(※のびのびとして大きいさま)

今回は、「観光資源」と「地域の魅力」をキーワードに、国内外の見どころを紹介する各種旅行案内(ミシュランガイド等)、観光地の評価やランキングなど、関連図書、専門書、古書・稀覯書(抜粋コピー)等を集めてみました。当財団が「日本における観光資源の評価に関する研究」の成果を基に監修した写真集『美しき日本 旅の風光』も併せて展示いたします。

ぜひ多くの方に当館を訪れていただければと思います。

*詳細は、ホームページ<http://www.jtb.or.jp/>へ、[旅の図書館特別展示](#)で検索